

子犬の身体的健康と 精神的健康のために II

精神的健康のために



エヴァーグリーン・
ドッグ・フィールド
代表 森 一彦



今回は子犬の身体的健康のためには子犬に対するワクチン接種が重要であること、子犬の精神的健康を涵養するためには人と犬、其々に対する社会化をすることが大切であることを述べました。

子犬は生後2

ヶ月間は母犬や兄弟と一緒に過ごすことが重要で、母犬のおっぱいを強くかじっては叱られ、咬んではいけないもの、咬む強さの加減を学んだり、母犬にくっついてまわったり、兄弟犬と遊ぶ中で犬社会でのルールやコミュニケーションの方法などを学んでいきます。生後2ヶ月間、この期間を母犬や兄弟犬と過ごすことなく母犬や兄弟犬から離されてしまった子犬は家庭に迎え入れられてから問題行動を引き起こす確率が高くなります。

このような理由から子犬を購入する場合には、飼養状況を見学させてくれるブリーダーから購入するのが、最も安心できる方法であると言えますが、現時点ではペットショップから購入する方が大多数であると思われるので、ペットショップで購入する場合には子犬を1頭づつ陳列ケースに隔離して販売するばかりでは

無く、適宜に子犬同士を同じサークルの中で遊ばせて、子犬同士の社会化を促進させて行こうという意識があるペットショップで購入するのが良い方法でしょう。

子犬は生後3カ月までは好奇心がいっぱい、のびのびと行動しながら適応性を広げて行く事ができるので、誰とでもじゃれて遊ぶことができると怖いもの知らずの状態です。4カ月になると不安や恐怖心が芽生え自分を守る警戒心が育ってきます。そして4カ月半が咬む強さの加減を覚えられるリミットの時期と言われています。

とにかくこの時期までに多くの人・犬・音に触れたか、体中触られたか、この時期の経験値によって怖がりや陽気など氣質が決まると言っても過言ではないと言われています。なので生後4カ月半以前に犬同士の社会化を始めることが最も大切な事なのです。社会化の進め方としては3〜8頭程度の子犬を1グループにしてノリードで同一空間に放します。飼い主はできる限り干渉しないで見守るだけにするのが望ましいやり方です。子犬の中にはシャイでおとなしい子もいれば、強引で押しの強い活動的な子もいますので、そのように氣質が全く違う子犬が2頭という組み合わせを避けるためにも3頭以上でプレイセッションさせるのが理想です。このようなプレイセッションを数回行うだけで、シャイな子にも自信が生まれ、押しの強い乱暴な子はずっと優

しい子犬になっていくのです。やがて活動的な子犬はそうした子犬同士と遊ぶ傾向があり、シャイで引っ込み思案な子は似たような仲間を探して遊ぶようになることに飼い主さんも気が付くでしょう。

小型犬と大型犬の子犬をプレイセッションさせることにも意義があります。小型犬は大型犬の追っかけ反応を誘発しないためには、逃げずにじっとしているか、服従的な姿勢をとることで大型犬から身を守る事を学習することが出来ますし、大型犬で興奮しすぎる活動的な子でも、小型犬に乱暴なふるまいに及べば相手が遊んでくれなくなる事を学習します。このような子犬同士のプレイセッションは犬同士の社会化を促進させること以外にも、「咬みつきの抑制」を学ぶことによつて、飼い主に対しての咬みつきの行動(甘がみ)もコントロールしやすくなりますし、プレイセッションを楽しんでいる犬は飼い主を攻撃したり、他の問題行動を発生させることもほとんどありません。飼い主さんがしつけを行うに当たってこれほど有効な手段はないと言つてよいでしょう。

そうはいつても、身近に都合よく同じ月齢の子犬が何頭もいるケースはそうあることではないと思ひますので、その辺りをどう解決していくかは次号以降に述べさせていただきます。今回は、鳴海治先生の「犬の本音がこんなにわかる!」とイアン・ダンバー博士の「イヌの行動問題としつけ」を参考にさせていただきます。

遊ぶ 学ぶ かかり合う...Wan倶楽部
Evergreen Dog Field
 ドッグラン・ドッグカフェ・飼い方相談
 福島県郡山市熱海町高玉字坂山1-1 警梯熱海1.Cから約6分
 ☎024-994-0811 | エバグリーン・ドッグフィールド | 検索
福島県19都県保健第21号・訓練第5号(有) Evergreen Dog Field
 登録年月日H19年4月6日 有効期限の末日H24年4月5日 動物取扱責任者 森一彦